

文教いしかわ

No.68

URL <http://www.bunkyo.or.jp/>

石川県文教会館開館30周年

一 特集 一

3頁：「いしかわ師範塾」塾頭 新村 健了氏
4・5頁：インタビュー「人」
石川県指定無形文化財保持者 木村 澄子氏

文教会館30年からの チャレンジ

石川県文教会館 館長 近藤 繁彦
(公益財団法人石川県文教会館 専務理事)



開館30年を迎え、現在までを10年タームで3期に分け、Ⅰ期(創生期)Ⅱ期(充実期)Ⅲ期(発展期)

とし、各期の歴史を振り返りながら、今後の文教会館のあり方、方向性を県民・市民の皆様にご提示してまいります。

Ⅰ Ⅰ期(創生期)：開館当初の思い

奥名洋明教育長は「文教いしかわ」巻頭言において、「教育団体の活動や事業の拠点を定め、地域住民や教育関係者の相互交流を図り、以て石川の教育財産の蓄積に資する」と述べておられます。

また、教育関係者による座談会において、「文教会館を本県学校教育の拠点に」「多くの先生方が気安く利用できる施設」「ホールで子どもの出演する催し物」などの意見・要望が出されてきました。

さらに、滝連雄初代館長は、「教育現場のサークル活動の場」「一般社会人の教育に対する関心を反映する場」と考えておられました。ホールの座席数590は県内小中高の校長先生が一堂に会することができるように設定したそうです。

このように開館当時の本館に寄せる思いは壮大で教育の殿堂とも言うべき、多方面から総合的に教育を眺める県民との接点としての施設を目指しました。



Ⅱ Ⅱ期(充実期)：10～20年の思い

齊藤真一郎館長は、「文化事業、青少年の健全育成、貸館事業、生涯学習」を四本柱として挙げられ、事業の充実を図っておられました。特色ある事業としては、教育相談関係講座(ロールプレイ、クオリティスクール等)、教育講演会(パネルディスカッション「いじめ」、心の教育等)、海外ホームステイ研修、教職員美術展など充実した事業を展開した時代であり、現在の諸事業の原型となるスタイルが確立されました。

中でも「文教クラシックコンサート」は昭和61年～平成16年に至る19年間に70回の公演を行い、県民・市民のクラシック音楽に接する機会づくりに大いに貢献しました。

また、平成2年～13年には海外ホームステイ(高校生・大学生対象)を実施し、若者のグローバルな視点の醸成に寄与しましたが、残念ながら参加者の減少、国際情勢の悪化等により終了いたしました。

Ⅲ Ⅲ期(発展期)：近十年の思い

教育関係事業として、国際理解講座(英米文化、韓国文化)を展開しております。当初C.L.C(カルチュラル・ラーニング・センター)として始められ、単に外国語講習だけではなく、異文化理解と日本文化の再認識を促すことを目

的とし、現在まで受け継がれている事業です。

芸術文化振興事業としては、地元劇団公演、クラシックコンサート、講演会、教育文化研究会を展開しました。文教クラシックコンサート事業は、現在「文教アートウェイブ」として引き継がれ、先生方や子どもたち、さらに地域の団体の舞台芸術活動を支援しております。

平成16年から新たに、教育資料収集整理事業として県内の貴重な教育関係資料を散逸・廃棄から守り、調査収集を継続しております。平成17年には、「いしかわの教育あゆみ展」として、収集した資料を展示し、好評を博しました。また平成18年からは、「教育資料ロビー展」として県内各高校さらに教育テーマに沿って常設展示しております。

本館の姉妹館である「アートシアターいしかわ」(ラブリック7階)での事業としては昭和62年に開設されてから今日まで、ホール・ギャラリーの貸付、芸術文化自主事業、「子ども芸術文化セミナー」を展開し、特に「いしかわ県民陶芸展」は26回を数え、県民に好評を得ております。

4 これからの文教会館の方向性

(1) 基本概念

昭和58年当時の初心を忘れず、教育関係者が気軽に集える施設でありたいと考えております。教育関係事業、芸術文化を柱として、教育関係者・県民・市民が広く教育に関心を持ち、交流を通して教育について語り合う場、また趣味としての活動を続ける場を提供してまいります。

(2) 教育資料の収集・保存・活用

石川の教育を支えてきた各学校由来の物品や教科書・関係書籍さらに教育関係資料を多面にわたって収集し、その保存、遺物ではなく活用を図る現存物として大切にしていまいります。

(3) 公益法人としての性格

「石川県の教育文化の振興発展に寄与する」と標榜しております。身近なことから一つずつ実践して、教育文化の振興に努めてまいります。

(4) 新規事業の開拓

教育課題を多く抱える教育現場に対して、少しでも手助けとなるような新規事業・取組を計画してまいりたいと考えております。

(5) 事業収益

独立事業体としてできるだけ収益を上げるための広報活動、情報提供などの努力を継続してまいります。

以上總々述べてまいりましたが、文教会館開館30周年を迎えるに当たり、県民・市民の皆様には、今後とも本館事業へのご理解を賜り、一層のご支援とご愛顧のほど、よろしくごお願い申し上げます。



石川県文教会館開館30周年

石川県文教会館 開館30周年に寄せて

一文教会館の歩みとともに一

激動の中でのスタート

初代館長 滝 連雄



文教会館が財団法人として認可されたのは昭和58年11月22日、その建物の総称、石川県教育自治会館がオープンしたのは12月18日でした。その4年前、昭和54年に県教育振興会が結成されたのですが、戦後、本県には、教育界を代表する教育団体は存在せず、60もの教育研究団体はそれなりの目的を持って多くの成果を挙げていながら、そのままとまりとなる団体はありませんでした。また、教育に関心を寄せる県民も自由に参加して、一致協力し、活力ある教育活動を行う開かれた教育団体が必要であるとの声がある県民からの要望として出されていました。一方、教育研究団体自らも、相互の連携や拠点となる居場所を求めていたことから、県教育振興会が中心となって「文教会館」設立の運動となっていきました。

この運動は、各郡市にも及び、また、政界や経済界、PTAや婦人団体からの関心も寄せられ、「石川県文教会館建設を要望する連絡協議会」の誕生となり、議会へ請願、採択となりました。協議会は早速その設置場所を探すとともに、会員の獲得や組織の拡大確立を急ぎましたが、4年近い歳月を費やし漸く所在地が決定されました。私は、昭和58年4月に文教会館開設準備室長を命ぜられ、会館建設にまつわる地元尾山町と西町との折衝に当たりましたが、教師では得られない人の情愛に初めて触れることもありました。今でも会館隣の理髪店の常客になっています。

同年12月18日に館長辞令を戴きましたが、各界からの期待が大きく、また、他府県からの見学や問い合わせも多くあり、こうした期待に応えるために新しい次代の石川の教育運動を展開する核とならねばならないと強く感じ、思いついたのは、入居各研究団体と共に活動を計画することでした。そしてスタートしたのが文教会館事業推進協力員制度です。教員、PTA、一般の方がボランティアとして参加し、グループに分かれて文教いしかわの発行、教職員の余技展やコンサート開催等の活動を始めました。各グループで温泉や山歩きを楽しんだりもしましたが、各自ボランティアで持ち寄り経費で教育活動の夢を語り合い、研究団体活動の交流も行いました。

その後、県民が街中で芸術文化に触れる空間「アートシアターいしかわ」が片町ラプロに誕生し、その運営が財団に任せられ文教会館の姉妹館として歩み始めました。県民の負託に応えるべくスタートした財団も教育界の変化に伴う新たな整備に入っていました。

会館十年目の企画についての印象記

第3代館長 関戸 信次 (開館10周年時)



今年が開館30周年を迎えられると聞き、感無量です。私が会館にご縁のあった平成2年からの4年間は、華々しい開館行事が実施されていた時期でもあり、10年近く経過していたので、多少新風を入れた方がとの思いもありました。当時、音楽、芸能面に精通され、語学も堪能な事業課長さんのお力添えを得て三本の矢で新しい風を送り込みたいと思いました。

第一の矢は、質の高い演劇鑑賞の機会を県民へとの思いでした。当時、金沢三文豪の一人である泉鏡花の作品を情感溢れるように演じたら比類なき水谷良重率いる松竹新派の公演を選び、交渉の結果、上演が決定したときの喜びは忘れられません。更に幸いなことに、その年、文部省(現文科省)の事業費半額助成で古典芸能「文楽人形浄瑠璃公演」の募集を実施したことを知り応募したところ即座に決定。人間国宝

吉田玉男、吉田賛助両者の妙技を目のあたりにした感動も印象深い。いずれの公演も開場前からエントランスホールに長蛇の列が出来る盛況振りでした。

第二の矢は、従来から実施されていた外国語講座をネイティブスピーカーの講師に統一することでした。初期段階のアンドリュース氏をはじめ、現在のジョフリー、エリック両先生のお力添えで立派に国際理解講座として進化していることに敬意を表します。

第三の矢は、何と言っても「いしかわユースシンフォニー定期演奏会」の実現でした。半年間の猛特訓の末に年度末、大ホールでO E Kの榊原栄氏の指揮のもと、見事にドボルザークの「新世界」を奏で得た感動は今も夢に見るくらい印象的な出会いでした。

以来、30年、会館運営に携わられた多くの方々のご努力で、新しい時代に即応した企画行事が華やかに花開いていることに心から敬意を表します。最後に文教会館でしか行えない教育資料収集事業のさらなる充実を期待して欄筆いたします。

文教会館のステップアップ期

第9代館長 鵜目 敬 (開館20周年時)



県文教会館開館30周年おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

私が文教会館に勤めさせていただきましては、行財政改革、新県庁舎落成などがありました平成14・15年度の2年間でしたが、いろいろなことが思い起されてきます。

一つは職員会館の閉鎖です。職員会館は昭和58年の開館以来、5階の宿泊施設、4階会議室と地下のトレーニングルームを運営してきましたが、平成15年3月末をもって閉鎖されることになり、それに伴い5階を除く4階及び地下のエリアの管理が文教会館に移管されることになりました。そうした折、県教育振興会(当時の会長 滝連雄氏)から「石川の教育史資料収集整備事業」推進の話が持ち上がりました。文教会館としても教育・文化関係資料収集事業を実施してきたこともあり、地下の資料展示室に隣接する

トレーニングルームの活用を含め側面から協力することになりました。この管理エリアの拡がりはその後の文教会館運営にも色々な面で大きなプラスとなっただけでなく教育の殿堂に向けての大きな一歩になったと思っています。資料収集事業は後に文教会館の事業として引き継がれ今日4万8千点余の資料が保管されるまでになったことは喜ばしい限りです。

また、開館から20年が経過し内装の随所にほころびが見られ修復に努めたものですが、今はホールの壁紙もすっかり整美され、利用者の方に気持ちよく利用していただけるようになったことにホッとしています。

文教会館では本県の教育・文化の振興のために多彩な事業を展開されていますが、“都心の教育・文化のオアシス”として、調査・研究・学習の場の提供、教育研究団体や各種文化団体の活性化のために利用しやすい、愛される場として、益々発展されますことを願っております。



石川の教育 新たな取り組み「いしかわ師範塾」について

石川県教育委員会教員指導力向上推進室

いしかわ師範塾 塾頭 新村 健了

はじめに

子どもの学習意欲や規範意識の低下をはじめ、いじめ、不登校などさまざまな教育課題への対応が迫られる中、残念なことだが、教員に対する信頼と尊敬の気持ちが低下している。昨今の体罰の実態報告や教員の不祥事などが続くのを見るにつけ、抜本的な対策が必要と思われる。

教育は、我々社会の発展を実現する基盤であるとともに、一人ひとりの子どもの未来を創る仕事であり、それを担う教員の質とその在り様が今、問われている。学校の教育力を高めていくためには、何といたっても教員の指導力に負うところが大きく、一人ひとりの教員の資質の向上、言い換えれば、高い指導力を身につけ、広い視野と人間的魅力を持ち、コミュニケーション力があり、明るく積極性に富む教員の育成が欠かせない。

1 いしかわ師範塾開設の背景

石川県ではこれから教員の大量退職とそれに伴う大量採用（来年度も350名の採用予定）が本格化し、今後10年間で半数近くの教員が入れ替わるといふ急激な世代交代期を迎えている。ベテラン教員の大量退職は大きな痛手であり、後に続く若い教員の育成と優秀な人材の確保、教育水準の維持向上は喫緊の課題である。

県教委では、こうした状況を見据えて、昨年度から「教員研修制度改革会議」を発足させて検討を進めているが、今年度からこうした対策に位置づけられる新たな取り組みとして、「いしかわ師範塾」を県教育センターにおいて先行的に開設した。

2 いしかわ師範塾の方針

近年、若い教員には指導技術やコミュニケーション力の不足、真面目だが積極性に乏しく、協働精神が足りないなどの声も聞かれることから、「いしかわ師範塾」では少人数指導で実践的な研修に重きをおいて指導したいと考えている。当然のことながら、学校現場や大学の講義などに支障がないように運営していくことになる。

今年度は、本県の教員を目指す学生や学校現場の講師の皆さんを対象に実践的な研修を通して、教師としての使命感を醸成し、教科指導力やコミュニケーション力の育成を目的とする「養成コース」からスタートした。指導に当たる先生方は優れた指導技術と豊かな経験・知識を兼ね備えた12名の退職教員で構成され、講座は少人数指導による模擬授業、ロールプレイ、学習指導の基本、人間関係づくりや学校実習など、充実した内容で実践力が身につくよう取り組んで参りたい。

3 今年度開講する講座

(1) 土曜セミナー

これは4月から7月まで月2回、土曜日に開講してきた講座で、現在、本県の教員を目指す講師を対象に教科指導力やコミュニケーション力の育成を目的とするセミナーである。受講生は回を追うごとに増え、平均150名を超えたため少人数指導の体制を維持すべく午前の部と午後の部の二部制で対応することとした。参加した講師からは「自分の課題が明確になり、明日からの実践に活かしたい」「他の講師とも交流ができて大変刺激を受け

た」などの声が多く寄せられ（土曜セミナー）に対する期待の大きさがわかった。



土曜セミナー 模擬授業の様子

(2) 授業サポート

初任教員に比べて、講師に対する指導や支援体制は不十分なのが現状である。〈前期授業サポート〉は5月から7月にかけて本県の教員を目指す1、2年目の講師を対象に授業力向上を目的とし、指導員が勤務校を訪問して授業参観し、その後の整理会で指導助言を行うものである。短期間に200校以上の学校の講師から申し込みがあり、指導員は席を温める暇もない忙しさである。指導を受けた講師からは「明日からの指導に意欲が湧いてきた」「悩みの相談に乗っていただき感謝の気持ちで一杯です」などの声が多く寄せられている。

(3) 学生対象のセミナー

これは本県の教員を目指す大学3年生と大学院1年生を対象とした講座で、講義だけでなく模擬授業やロールプレイなどを盛り込んだ実践的な演習を通して、教員としての心構えをはじめ、授業づくりと学級づくりの基礎を身につけることを目的としている。〈学生対象のセミナー〉には標準コース（8月から来年の6月まで毎月1～2回、土曜日に開講する講義・演習と80時間の学校実習を行う）と休業中に講座内容を凝縮して行う5日間の短期コースとがある。また、学校実習では受講者が実際に学校行事に参加したり、授業の手伝いや研究授業の参観などを行ったり、教員の仕事を体験してもらう。

結び

「いしかわ師範塾」はまだ始まったばかりの事業であり、これからも12名の指導員の試行錯誤は続くものと思う。課題としては、講座の質的向上や指導体制の充実、さらには学校現場や大学との密接な連携などがあげられる。今後、「いしかわ師範塾」で学んだ受講生が晴れて教壇に立った時に、子どもと良い関係を築いて保護者や地域の人からも認められ、教員として信頼と尊敬が得られることを期待している。

最後に、県民の皆様には、本県教育の担い手の育成を掲げてスタートした新たな取り組み「いしかわ師範塾」に対するご理解とご協力をお願い申し上げます。

☆いしかわ師範塾へのご意見・お問い合わせは
TEL. 076-298-1504 までお願いします。



石川県指定無形文化財「金沢素囃子長唄・鳴物」保持者

木村 澄子さん (芸名 杵屋 喜澄、望月 太以)

昨年10月に本県の指定無形文化財「金沢素囃子長唄・鳴物」保持者として認定された木村澄子さんを金沢市東山のご自宅に訪ね、金沢素囃子や杵屋先生の歩んでこられた道についてお話を伺いました。

インタビュアー 石川県文教会館 館長 近藤繁彦



近藤 先生の人となりやを少しでも皆さんに伝え、古典芸能の金沢素囃子について理解して頂きたいということでお伺いします。

県の無形文化財の指定を受けられたことについて、ご感想をお聴かせ願います。

杵屋 年を重ねて参りましたので、県も指定してくだ

さったのだと思います。娘も孫も後継者として育っており、金沢素囃子の層が厚くなりますことは嬉しいことです。

— 金沢素囃子の歴史、現在 —

近藤 金沢素囃子の今までの歴史や現在の状況はいかがでしょうか。

杵屋 金沢素囃子保存会が結成されましたのは昭和53年のことです。いつまでも金沢に残しておきたいという思いで金沢市が保存会を作ってくださいました。昭和55年には加賀宝生に次いで第二号の金沢市無形文化財に指定され、また、昭和59年には文化庁地域文化功労章を受章しました。伝習者制度など後継者育成のために石川県や金沢市が力を入れてくださったことは、地方都市として本当に恵まれていることです。

近藤 一般の方への金沢素囃子の広がり具合はどうなのでしょうか。

杵屋 芸妓さんはもちろんのこと金沢は伝統文化に関心が高く、興味を持ってお稽古に通われる方もたくさんいらっしゃいます。一時期、茶屋街にみえる人が減り、素囃子に携わる人が減ったこともありましたが、でも、ある方に相談したら、「続けていれば希少価値がきっと出る」と仰ってくださったのです。そのおかげで今日があります。

近藤 減った時代は、いつごろですか。

杵屋 昭和20年代から30年代でしょうか。その頃は素囃子のステージもあまりありませんでした。

最近では、パーティーやイベントなどで披露させて頂く機会が増えました。芸妓さんは金沢おどりもあるのでお稽古の励みになっています。今では金沢の観光の一翼を担っていますね。

近藤 講師を務められます金沢素囃子こども塾の方はどうでしょうか。将来性とか。

杵屋 和楽器に触れたことのない子どもたちが、目を輝かせてお稽古している姿はとても嬉しいですね。大人では考えられない質問をしてくれたり、私たちもとても新鮮な気持ちです。

お母様方の中で、自分が習いたかったけど習えなかったから子どもを連れてきた、という方も何人かいらっしゃいました。この中から一人でも金沢素囃子の一員となる人が出てくれることを夢見ています。

— 金沢、東京での修業時代 —

近藤 お母様の初代杵屋六以満さんに習っていた時代や東京での修業時代にご苦労されたことは。

杵屋 母に習っていた頃は戦争中で、誰もお稽古に来られませんでした。夜などはなにもすることがないので「お稽古するよ」と言われて、アセチレンガス灯を1本つけて灯火管制の中で、「鞠猿」など大曲を1対1で習いました。外に光がもれるといけないので、暗幕を張ってお稽古しました。

お稽古になったら母はお師匠さんで、それはもう厳しかったです。普段は、直には教えてくれないので、お弟子さんに教えているのを横で見学しました。

東京での修業時代は、二年間住み込みでした。そのため自分の時間がとれず、お風呂を焚きながら長唄の練習をしていました。

当時は、食糧難の時代で、母が心配してお米やお砂糖を送ってくれました。森八の前に行列ついて買った貴重な羊羹も。とてもありがたかったです。



六左衛門先生のお稽古はそれはそれは厳しく、あそこの家で働いたらというほど評判になりました。他にも内弟子は2人いましたが、半年と一年で「ごめんさい」と帰ってしまいました。けれど私はそこを辞めたら金沢に帰れないんです。

近藤 先生はお母さんとの練習である程度の技量はもっていらしたのに、それでも厳しくされるのですか。

杵屋 本格的に仕込もうと思いなさってのこと。杵六(きねろく) 会をはじめ、いろんな演奏会にも出させて頂きました。素晴らしい先生方と一緒にさせて頂き、たいへん勉強になりました。

— 厳しい修業を支えたもの —

近藤 苦しい修業時代を支えていた思いというものほどなんでもでしたか。

杵屋 母は本当は優しい人で、私はなんとか心配をかけ



たくないという思いでした。

一年目にやっと金沢に帰してもらったら、ひがしや主計町の芸妓さんは「なんにも言わんでいい」「澄ちゃんの手見たらわかる」って言ってくれました。アカギレだらけだったんです。

近藤 1日に稽古の時間は、どれくらいあったのですか。

杵屋 ほとんどないですね。ひと月に4日間ぐらいでしょうか。先生の下駄の泥を落としたり、お台所やお洗濯など家事ばかりでした。母からは跡を継いでくれと言われていましたし、辛くてもどうしても帰るわけにはいかなかったんです。

近藤 東京での2年間で心の楽しみであったということはない。

杵屋 8曲ほどしか出ない杵六会に出していただき、そのなかの立唄（たてうた）を頂戴致しました。立唄は唄のリーダーですので、これはやらなくてはと。私はちっとも芸の質もよくないしだめなのですが、先生は目をかけてくださったんです。奥様も本当にいい方で、とても可愛がって頂きました。

近藤 住み込みでしたが休みはとれましたか。

杵屋 まずなかったですね。でも、お嬢さんが二人いらして、なにかあるときに奥様が「澄ちゃんも一緒に連れてってあげ」と言ってくださり、買い物に行くことができました。映画も一・二回ありました。それより、先生が歌舞伎座に出られる時に抱持ちでお供して、その舞台を拝見していると楽しかったですね。

— 素囃子に打ち込む源 —

近藤 素囃子に自分自身を駆り立て打ち込ませる、まだまだ修業しなければいけないという思いにさせる、その源みたいものはなんなのでしょう。

杵屋 好きなことなのでいくらでもやりたいという気持ちはあるのですが、昔から身体が弱いもので入院したり怪我をしたりといろいろありまして、満足なことがなかなかできません。

素囃子はコンダクター（指揮者）がいなく、それぞれ違うことを演奏しているのですが、それでもピタッと合う絶妙な間があります。一番最後に「イヤー」と終わったときに、なんともいえない良い気持ちです。

それと、お稽古していて、お弟子さんがだんだん上手くなっていくのが嬉しいですね。

近藤 先生の素囃子を発展させ維持していかなければいけないという思いの中に、お母さんへの思いというものがあるのではないかと気がするのですが。

杵屋 やはり、それが一番ですね。金沢素囃子の草分けは母でしたから。全国的にも素囃子を演奏できる所は少なくなり、地方でここまで演奏できるのは金沢だけではないでしょうか。長唄と鳴物を一軒でお稽古しているのも稀でしょうね。

母は、やはり芸が好きだったのでしょう。馬場小学校

を一番で卒業しましてね。4年生のときに本を読んでいたら杵屋六左衛門という名前を見たらしく、どうしてもそこに行きたいと思ったそうです。そして主計町の本津屋さんという旅館の先々代がご縁あって、親戚の方を紹介してくださったんです。

（東京の）御徒町にいらしたその親戚の方が大変お唄の上手な方で、女六左衛門と言われるくらいの方でした。そこのお宅を頼って上京しました。そして六左衛門先生が金沢にお囃子の望月流家元7代目望月太左衛門先生を紹介してくださったんです。笛の藤舎流、日本舞踊の宗家藤間流のそれぞれの先生を金沢にお呼びしたのも母でした。

私は賞を頂くと、当然母が頂くべき賞だなといつも思います。

— 若い世代へのメッセージ —

近藤 若い世代や後継者の方々へのメッセージをお願いします。

杵屋 「好きこそものの上手なれ」で、一生懸命やっていってくれればと思っています。芸の道は坂道で、止まったら下がるのです。たゆまずに向上心をもってお稽古に励んでほしいと思います。

近藤 先生のお話から、芸の道は果てしがなく、生涯修業だということですが、そういった先生の後ろ姿や姿勢が後輩の方々を引っ張り上げる力になっているのと感じました。最後に、先生が非常に健康そうで、魅力的で粋な感じに見えるのですが、若さを保つ秘訣や心がけていらっしゃることは何でしょうか。

杵屋 あまりくよくよしないことですね。くよくよしたら夜眠れなくなりますし、なるべくそういう嫌なことはさらっと忘れるようにしています。そして生涯現役でいることですかね。お稽古していると、毎日が楽しく元気になります。いろんな方とお話することも自分の刺激になります。

近藤 以前に勤務していた学校に来てくださってご披露していただいたときに、生徒達はしーんとして聴き入っていました。洋楽で育っている彼らが邦楽に対してびしーんとしていました。先生の芸の力はすごいと感じ入りました。

県知事さんが県の至宝に認定されたことは、私たちの思いそのものです。今後ますますお元気でご活躍ください。本日はまことにありがとうございました。



事業紹介

教育資料収集整理事業

当財団では、県内に存在する貴重な教育資料を収集し、保管や展示を行っています。収集数は、江戸時代に藩学で使われていた書籍や明治時代の教科書をはじめ、教育文献・教具等4万8千点を超えます。

これらの教育資料は、当館のホームページにそのリストをエクセルのデータとして掲載しており、ダウンロードし自由に検索することが可能です。また、当館地下の資料展示室や物具室でも閲覧することができます。

☆閲覧希望の方は事前にお電話でお問い合わせください。 TEL. 076-262-7311



石川県文教会館蔵書リスト

検索

文教会館所蔵「教育資料」の紹介

紹介者 前文教会館長 楠 景二

「金沢大学名誉教授 川口恒子 音楽教育文庫」

金沢大学名誉教授川口恒子先生が2012年3月3日に88歳で逝去され、ご遺族の厚意と関係各位の尽力によりご遺品のうち、書籍、楽譜、PLレコード、CD、DVD等を、文教会館に寄贈いただきました。まず故川口恒子先生の経歴について簡単にふれておきます。

1924年(大正13年)3月3日東京で出生

1945年(昭和20年)東京音楽学校〔現東京藝術大学〕を卒業〔ピアノ専攻〕

1950年(昭和25年)～1989年(平成元年)金沢大学教育学部音楽科で教鞭を執る。その傍ら自宅で児童生徒を指導。合間を縫って作曲、リサイタルと幅広く活動。ショパン、バッハら著名作曲家の自筆楽譜から作曲家自身が真に意図した表現の形を明らかにする研究に精励。一方で石川県ピアノ協会の設立に尽力、初代会長に推挙され、30年間その職を勤める。

1998年(平成10年)金沢市文化賞を受賞

2002年(平成14年)勲三等瑞宝章を受章

この度寄贈いただいた遺品は、音楽教育関係書籍・辞典類約800点、ピアノ・声楽の楽譜類約1000点、LPレコード・CD・DVD類約1000点、雑誌約800点です。楽譜は国内出版社のものより海外のものが多くあります。音楽・教育関係の雑誌は数種類が残されており、特に「音楽の友」は先生執筆の記事が掲載されていることから、創刊当時から逝去直前の号まで揃っています。以下、独断で珍しいと思うもの3点を紹介します。

①J.S.BACH 「Das Wohltemperirte Clavier II 24 Präludium und Fuga(BWV.870～893)」

1980年 BRITISH LIBRARY 47×39cm

「平均律クラヴィア曲集 第2部 24の前奏曲とフーガ」の自筆楽譜ファクシミリです。学術資料として出版されたと考えられ、高度な写真製版技術によるもので原寸大です。インターネットがまだ普及していない頃の出版であり研究者からは大いに歓迎されたものと思われれます。先述の奏法研究のための根拠とすべき資料として購入されたものと思われれます。見返紙に縦長の「川口文庫」の蔵書印があることから大切な1冊であったことが窺われれます。

②W.A.MOZART 「REQUIEM KV.626」

1990年 BÄRENREITER Vol.1～3 各33×24cm

「レクイエム」の自筆楽譜ファクシミリです。スコア2巻と解説書1巻の3巻から成っています。モーツァルトは本曲の作曲途中で亡くなり弟子のジェスマイヤーが補作したことは知られています。これを見ると作曲はミサの詞順通りではなかったようですし、Vol.2では合唱やオーケストラのあちこちが空白になっており、未完の状況が正確に分かります。書き直しの線消しはなく「作曲に要する時間は、書くために手を動かす時間だけでよかった」という言い伝えが一層信憑性を帯びてきます。天才の頭脳の中を垣間見るようです。(写真：右)



③芝 祐泰 「五線譜による雅楽総譜」巻一～巻四

1968～1972年 カワイ楽譜 各27×19cm

巻一：歌曲篇 巻二：管絃篇・早楽篇 巻三：管絃篇・延楽篇・大曲篇 巻四：高麗楽篇・舞楽篇・諸調子品



先生は音楽の授業では日本伝統音楽も取り上げるべきであると常々語っており、特にその原点とも言うべき「雅楽」には関心を持っておられました。雅楽譜の古文書も遺品の中にありましたが、西洋音楽を学んだ者が解るように、正確に五線譜に書き直された本書は他に類をみないものであります。(写真：左)

ピアノは学校の音楽授業を行う上で必須であることから、専攻分野に関係なく音楽科の学生の殆どが川口先生からピアノの指導を受けました。戦後の学制改革で、石川師範学校が金沢大学教育学部に引き継がれて間もなくから、小・中・高、特別支援学校の音楽教師の育成に尽力され、「音楽にテクニックは必要だが、心に響く音を奏でることの方により価値がある」を信条とされておられました。ご遺徳に敬意を表して「川口恒子音楽教育文庫」と名付け、文教会館で末永く保管、閲覧に供することになりました。

事業紹介

文教アートウェイブ

文教アートウェイブ事業では、地域文化の振興を図ることを目的に、演劇や演奏会等の公演を希望される方に利用料と冷暖房費無料でホールをお貸ししています（照明設備費等有料）リハーサルを含む3日間までご利用できます。

☆お問い合わせ：文教会館事業課まで TEL (076) 262-7311

☆ホームページから募集要項や過去の公演一覧をご覧いただけます。



第35回若き乙女の華麗なる饗宴

文教アートウェイブ 検索

今後の公演予定

37回	夏休み子ども劇場 児童劇「れんげまんだら」 出演 いかわ子ども交流センター演劇クラブ・児童劇団さくらんぼ	8月7日(水) 13:30
38回	流音(るね)の会演奏会(声楽・ピアノ他) ◇入場料:500円(小学生未満のお子様のお入場はご遠慮ください)	8月16日(金) 15:00
39回	いしかわフルートフェスティバル2013 ◇入場料:1,000円	8月31日(土) 18:30
40回	金沢桜丘高校吹奏楽部クリスマスコンサート ◇入場料:1,000円	12月23日(月・祝) 17:30
41回	バレエの街コンサート2014 ◇入場料:一般2,000円 中学生以下1,000円	平成26年1月19日(日) 14:00
42回	金沢伏見高等学校吹奏楽部コンサート(仮称)	平成26年3月22日(土) 時間未定

2013文教国際理解講座

アメリカ・カナダ・韓国出身のネイティブスピーカーによる外国の言葉や文化を学ぶひとときです。定員に空きのある講座には途中入会ができます。お電話でお気軽にお問い合わせください。

実施期間：5月7日(火)～2014年2月27日(木)

対象：教職員 一般 高校生

定員：1講座20名

受講料：年額35,000円(年35回) (教材は実費負担)

講座時間割

	10:00～11:40	18:30～20:10
火曜日	英米文化 中級	英米文化 準中級 英米文化 上級
水曜日	英米文化 準中級 英米文化 中級	英米文化 準中級 韓国文化 初級 19:00～20:40
木曜日	英米文化 初級 英米文化 準中級	英米文化 初級 英米文化 中級

途中入会の方の受講料は、入会後の回数分となります。



タスケン先生



キム先生



コンソルボ先生

☆ホームページから募集要項等をご覧いただけます。

文教国際理解講座 検索

アートシアターいしかわ

閉館のお知らせ

文教会館の姉妹館「アートシアターいしかわ」は、県民に身近な文化活動の場を提供することを目的として昭和62年、ラプロ片町の7階に開館しました。

以来、200人収容のホールをはじめとして、ギャラリー、サロン等の貸付を行い教育文化活動、作品展示や研修の場として親しまれてきましたが、「平成26年3月16日」をもって閉館することとなりました。27年の長きにわたり、ご利用いただきありがとうございました。

なお、閉館までは通常通り営業いたします。最後までご利用いただきますようお願いいたします。

☆ホール練習使用のお知らせ☆

楽器演奏や合唱、演劇等にお気軽にご活用ください！

対象：音楽、演劇などの練習

利用時間：10:00～21:00

利用料金：1時間 300円(1団体につき)

◇アップライトピアノ(無料)・グランドピアノ(有料)

予約受付開始日：1ヵ月前の1日から

◇2日前から当日のご予約の場合、19:00までの使用となります。

◇21:00まで使用する場合は、3日前までにご予約ください。

☆その他の施設の予約も随時、受け付けております。

詳しい内容や利用料金につきましては、「アートシアターいしかわ」まで、お問い合わせください。ホームページでも、ご覧になれます。

TEL (076) 220-1888

アートシアターいしかわ 検索

第26回いしかわ県民陶芸展

—アマチュア陶芸作品募集—

県内のアマチュア陶芸愛好家の皆様、作品の創作・展示・鑑賞を通して、陶芸の楽しさや豊かさを発見しませんか。石川県にお住まいの方ならどなたでも応募できます。小さなお子様からご高齢の皆様まで、ぜひ、ふるって作品をお寄せください。お寄せ頂いた全ての作品を展示します。発表の場としてご活用ください。

■作品応募について

- 作品規定** ・未発表の自作品（1人1作品のみ）
 ・一辺が50cm以内、縦横高さの合計が120cm以内
 ・団体作品は、展示した時に90cm×90cmの範囲内
- 出品料** 一般 1,500円 青少年（20歳未満） 無料
- 受付日時** 平成26年1月11日（土）・12日（日）10：00～17：00
- 審査員** 浅蔵五十吉 飯田雪峰 大樋年雄 高光一生（五十音順、敬称略）
- 表彰式** 平成26年1月18日（土）13：30～15：15

応募者全員に
参加記念品を
贈呈



第25回 陶芸展の様子

- 展示期間** 平成26年1月18日（土）～26日（日） *22日（水）休館日
 10：00～18：00（最終日は15：00まで） ◎入場無料
 ◇入場者の投票による「わたしの選んだ一点賞」を実施いたします。
 投票していただいた方から抽選で若干名に記念品を贈呈。

作品受付（搬入）・展示会場 「アートシアターいしかわ」ホール
 金沢市片町2-2-5（ラプロ片町7階）



第25回 大賞（汽車Ⅱ 渡辺伸子）

応募要項・応募票は、「石川県文教会館」「アートシアターいしかわ」にあります。ホームページからもダウンロードできます。☆お問い合わせ：文教会館事業課まで TEL. (076) 262-7311

いしかわ県民陶芸展

検索



2013子ども芸術文化セミナー

- 日時** 9月22日（日）13：30～
- 会場** 「アートシアターいしかわ」ホール
 金沢市片町2-2-5（ラプロ片町7階）
- 内容** **朗読劇** いしかわ子ども交流センター演劇クラブ
 児童劇団さくらんぼ
- 演奏会** 金沢辰巳丘高等学校芸術コース
 音楽専攻の生徒のみなさん

入場
無料

— 2012子ども芸術文化セミナーより —

いしかわ子ども交流センター
演劇クラブのみなさん金沢辰巳丘高等学校芸術コース
音楽専攻の生徒のみなさん

「いしかわ教育ウィーク」関連行事のお知らせ

文教会館開館30周年記念ロビー展

文教会館所蔵 教育物具展
～学校教育の足跡～

期間：11月1日（金）～7日（木）
 会場：石川県文教会館1階ロビー



入場
無料

当館が所蔵している明治以降の学校教育の中で使用された児童机や椅子、石盤、オルガン、アルミ食器、教材用レコード、統廃合された学校の校旗などを展示します。

「教育史セミナー」開催

日時 11月6日（水）14：30～16：00
会場 石川県文教会館401会議室
講演 演題「わが来し方
 —激動のはざまに生きて—」
 講師 清水 隆久 氏
 （元県立図書館長、元県立金沢女子高等学校長、農学博士）

参加費 無料・申込不要

「百万石と一百姓 —学農 村松標左衛門の生涯—」をはじめ、多数の著書を執筆されている著者に、自身の生い立ちや教育者としての道のり、生涯を貫く研究についてお話しいただきます。

文教会館開館30周年
記念式典&スペシャルコンサート

日時 11月28日（木）13：30～16：00
会場 石川県文教会館 ホール
入場料 無料

- 児童生徒による合唱のしらべ
- 記念式典
- スペシャルコラボ！室内楽と能のひととき
 出演：オーケストラ・アンサンブル金沢他

*都合により内容が変更される場合があります。
 後日、チラシやHPで詳細をご案内いたします。

多くの皆様のご来場をお待ちしております

